

多久クラブ少年柔道・相撲

▼仲間が増えることを楽しみにしているメンバー



『心技体』で技を磨いています！ 新メンバーも募集中

『多久クラブ少年柔道・相撲』は、昭和50年7月に柔道の普及発展と健全育成を目指して発足した『清心会』を受け継ぎ活動しています。市内外の小学1～6年生の児童11人、中学生6人が所属。柔道は久我緑郎さん、相撲は太田隆義さん、総合責任者の南里龍彦さんが指導体制を組んで、週5日（月・火・木・金・土）、夕方6時から8時15分まで子どもたちは北多久柔道場で練習に励んでいます。

南里さんは「まずはあいさつや礼儀から厳しく、トップアスリートを目指すように指導をしています。基本動作を学び技術を磨いて、たくましく強くなってもらいたい」と話し、現在強化指定選手が小学生2人、中学生3人いて多久市柔道のレベルアップを目指しています。

柔道を始めて1年の女の子は、「練習は厳しいけど、みんな熱心で試合の時に少し上を目指せるようになるのが楽しい」と成果が現れる練習に力が入っています。

問 南里龍彦 ☎090-7457-4833

ふ・わ・あ・い・ひ・ろ

●連載3● 郷土資料館で学ぶ多久の歴史

『高取伊好翁胸像』

平成23年5月3日、復元された高取伊好翁立像の除幕式が行われ、それまで設置されていた伊好翁胸像は取り外され任を終えました。この胸像は大部分県出身の彫刻家渡辺長男（1874～1952 彫刻家朝倉文夫の実兄）と鍍金家岡崎雪聲（1854～1921）によって大正10年に製作されたもので、伊好翁立像を手がけたのもこの2人でした。渡辺長男は岡崎雪聲の娘婿であり、2人は日本橋の麒麟・獅子像や旧多摩聖跡記念館の明治天皇騎馬像など多くの作品を製作しましたが、伊好翁立像のように戦時供出で失われた作品もまた多く、この胸像は貴重なものとなっています。

高取伊好翁胸像は今、多久市郷土資料館で展示中です。偉大な作家の手による威厳に満ちた姿を是非間近でご覧ください。



◀渡辺長男と製作中の高取伊好翁胸像

『多久市郷土資料館』

開館時間 / 9時～16時 入館 / 無料

休館日 / 月曜日

（月曜が休日の場合は開館し翌火曜休館）

■問い合わせ 多久市郷土資料館 ☎75-3002

市民文芸

短歌

《麦の芽短歌会 互選》

かなしみの極みと思ふ被災児の
校舎に集ふ顔に灯ともる

内田 龍子

災害の焦燥のなか三月は
立春なれど心冷えこむ

田淵ミチ子

福砂屋のカステラ土座に甥来る
長崎訛り無性に懐かし

迎 寿代

夕食は四世代全員勢揃ひ
賑やかなるは我が家の誇り

福島那智子

紅椿はらりと落ちぬ老いらくの
命の終わりもかくてありたき

川浪 信子

俳句

《あざみ句会 互選》

街路樹の青葉の中でバスを待つ
中尾 和弘

麦秋の遅速の色のひろがれり
田中 惇子

夏木立葉葎き家に祖母ひとり
中嶋 清子

紫陽花の一役担い村おこし
川内 澄子

叱られて父と植えたる花水木
千々岩弘幸

川柳

《多久市川柳会 互選》

あじさいの雨ごとに色気増し
古賀 弘子

梅雨入りで見ごろになった花菖蒲
木下ユキノ

補聴器にうれしい音色覚えさせ
井上 東子

震災を政局にして液状化
松下 修

いざ地震位牌忘れぬ高齢者
武富 庸平